

しが国際協力親善大使レポート

よしかわ はやと
吉川 隼人さん

隊次：2017年度2次隊

職種：建設機械

派遣国：ブータン王国

自己紹介

滋賀県野洲市出身。大学卒業後日本の民間企業で十数年建設機械に携わってきました。2017年10月にこの国に来て2019年10月に期間満了で日本に帰る為、残すところ9ヶ月となっています。着任してから3ヵ月程で1度目の投稿をしていますので2度目である今回はブータンでの体験をご紹介できれば幸いです。

日本での研修時に危険な道と紹介されたブータンの国道状況

任地はブータン中央より北にあるブムタン県になります。ここへは首都ティンブーよりバスで10時間、雨期の道路状況が悪い時だと無事に到着できる事を祈る旅となります。道中はほぼ山肌ですので谷側の景色は抜群に良く見渡せ、崖下ももれなく見下ろせます。アクシデントを体験したことは数度ありますが直接の危険を感じた事はありませんでした。落石による通行止め・雪によるスリップで前のバスが立ち往生・土がぬかるんでタイヤが抜け出せない。当然の様に用意していたお菓子を他のお客さん達のお菓子と交換しながら気長に休憩となります。後続の車が増えて来て男手が集まれば皆で車を押ししたりロープで牽引したりして脱出するのでトイレ問題以外はそれほど重大ではありませんでした。

活動や生活について

主な活動内容は建設機械の保守点検です。道路の無い山奥の村の為に車1台半ほどの道路を切り開いていく機械を整備しています。ブータン人のスタッフは日本からの長年の援助により壊れた箇所を治す通常の技術はすでに取得しています。次のステップアップとして壊れる前に点検修理を行い道路現場で急に機械がストップしないようにする事が私の目標です。自動車の様な車検制度が無いので機械の点検項目を書き出し、どの様に点検すれば良いか、どれ位の損傷で先に部品を交換してしまうか等をスタッフ達とやりとりしています。

道路建設現場は山奥の為に1日ばかりで到着すると地域住民の家に泊まらせてもらいます。数日お邪魔する事もありますが、村の道路の為に稼働している機械を点検修理しに来ているのでとても親切な扱いを受け、食事も珍しいものを振る舞って頂いたりもしています。ブータン人は殺生を嫌う仏教徒なので肉はインドから輸入される牛・豚・鳥しか店で見か

けませんが、事故や自然死の動物は解体してお肉にする人もいるようで崖から落ちて死んでいた「らしい」ヤギのスープを堪能したりもしました。

ただ虫、ダニ等は私の肌だけには親切ではなかったのでこの1年間は虫刺され痕がずっと消えずかゆみ止めが手放せなかったのは残念です。同僚達からは虫刺されでは無く、「ルー」(悪魔の様なもの)に憑りつかれているから「プジャ」(祈祷・悪魔祓い?)が必要だ!!と説得されこの1年間で色んなお寺に連れて行かれたのは楽しい思い出です。あるお寺で薬としてお浄めを済ませたバターを全身に塗られた時は少し辛かった気もしますが…

ブータンの子供達も外国人は珍しいので週末出かけると寄って来てくれます。ニックネームは名前の音をもじって「ハーイトォ」を名づけてくれました。ハーイは呼び掛けのハーイ、トォは現地語でご飯を意味するので、右手を挙げて呼び掛けながらご飯を食べる真似をするのが私への挨拶になっています。

私の任地では仕事以外で民族衣装を着ている姿をあまり見かけませんがお祭りや伝統的な遊び、祝日のイベント時はとびきりの服装で皆参加します。布を作った地域によって伝統模様のパターンが違うようなので帰国までには地域の判別が出来る様になりたいものです。

2年間という期間の間に体験する活動、生活は同じブータンへ派遣されている隊員といえ様々だと思います。いつの日かブムタン県という場所に配属されここで出会った人達との体験をご紹介できるよう残り任期を全うしたいと思います。



崖崩れによる通行止め



山奥道路建設現場



プジャでルーを移す憑代



村の子どもたち



ダンスチーム参加時